

TUSA

DIVE LIGHT TL-240

WATERPROOF TO
50m
HALOGEN

ダイビングライト TL-240 取扱説明書 OWNER'S INSTRUCTION MANUAL 第2版

当製品をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。

はじめに

この度は、TUSAダイビングライトTL-240をお買いいただき、誠にありがとうございます。当製品をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、ご不明な点がある場合には、お買い上げの販売店か、(株)タバタTUSAお客様相談室 (TEL. 03-3624-5650) までお問い合わせ下さい。取扱説明書は製品の一部です。必ずいつでも取り出して読める場所に保管し、忘れたり、分からないことが生じた場合には、何度でも読み返すように心がけて下さい。もし、他の人に当製品を貸し出すような場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。

株式会社タバタ TUSA事業部/東京都墨田区東駒形1-3-17 TEL.03(3624) 2814

危険事項 (それを守らないと、最悪の場合、重症事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。)

●スクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けてください。安全性の見地から、各団体の発行するCカード(講習修了認定証)を取得していない方の当製品の使用を禁止いたします。[但し、各団体のインストラクター監督下における講習中の使用は、この限りではありません。]
(日本スクーバ協会共通掲載危険事項)

●当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み、取扱い方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、ご不明な点がある場合には、販売店にて必ず説明を受けて下さい。

●Cカードを取得している方でも、もし減圧症やエアエンボリズム等の発生のメカニズムとそれを防ぐ方法を十分に理解できていない場合は、講習を受けた潜水指導団体のテキストブックを必ず理解できるまで読み返してください。基本的な知識のないままダイビングを行うと重大な事故につながる可能性があります。

●スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにして下さい。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。
(日本スクーバ協会共通掲載危険事項)

警告事項 (それを守らないと、事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。)

●次の事を守らないと電池からガスが出ることもあり、器具が破裂する原因となります。
(1) 電池は十一の方向を良く確認して、正しく入れて下さい。
(2) 新旧、異種の電池を混用しないで下さい。
(3) 使用後は必ずスイッチを切ってください。
(4) 使いきった電池は器具から取り外して下さい。
(5) 長時間ご使用にならない場合は、電池を器具から外して保管して下さい。

●目に向かって至近距離からライトの光を当て続けしないで下さい。目に悪影響を及ぼす場合があります。

●スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行って下さい。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には、絶対に無理を避け、ダイビングを中止して下さい。(日本スクーバ協会共通掲載警告事項)

●スクーバダイビングを行う前には、アルコール類の摂取はもちろんのこと、薬品類(特に点鼻薬やかぜ薬等)の服用も避け、体調の悪い方や持病のある方は必ず事前に医師の診断を受けて下さい。
(日本スクーバ協会共通掲載警告事項)

注意事項 (それを守らないと間接的に事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故がおこる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。)

●次の事を守らないと、浸水による不意の消灯などが起こり、事故の原因となります。
(1) ライトの耐圧性能は50mです。それ以上の水深では使用しないで下さい。
(尚、安全のためにも、レジャーダイビングの最大水深は30m程度にとどめる事を強くおすすめします。)
(2) Oリングとガスケットにゴミ、ホコリ、毛髪等が絶対に付着しないよう、また、指で引っ張ったりしてキズを付けないようにご注意下さい。
(3) 水中でご使用の際は、必ず新しい電池と交換して下さい。
(4) 分解や改造をしないで下さい。
(5) レンズフレームは、本体に止まるまでしっかりと締め付けて下さい。

●本体を落としたり、強い衝撃を与えると、ハロゲンバルブが切れたり、破損、故障の原因となりますので、取扱には充分注意して下さい。

●ダイビング前には、必ず充分明るく点灯するかどうかを確認して下さい。

仕様

サイズ：直径 60mm×長さ170mm

重さ：140g

耐深度：水深50m

耐温度性：0℃～+50℃

豆球：5.2V 0.85A ハロゲン球(予備球：4.8V 0.52A クリプトン球)

電源：単二形アルカリ電池4本(マンガン電池を使用の場合、連続使用可能時間が約半分になります。)

連続使用可能時間(ハロゲンバルブ使用)：約2.5時間

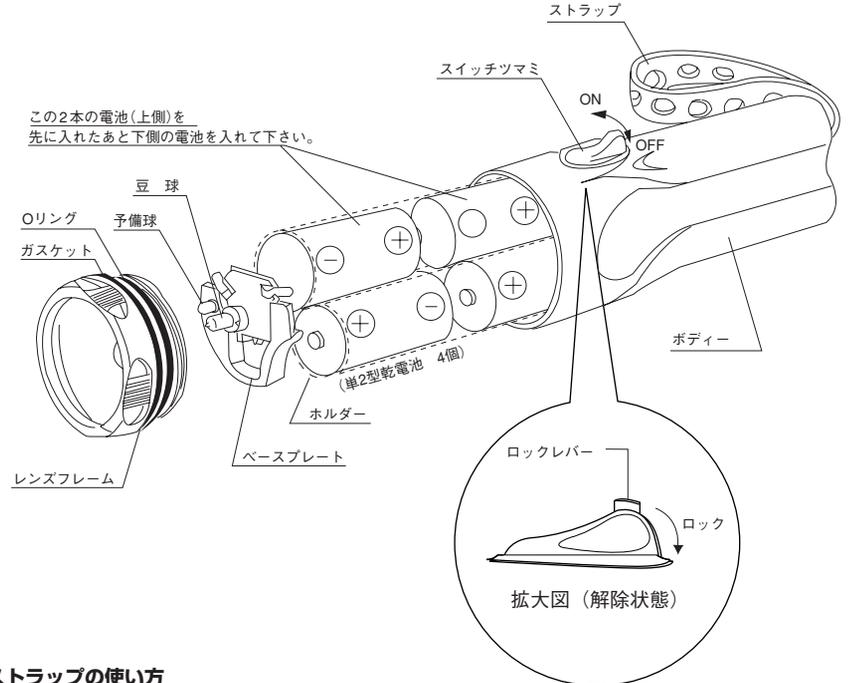
材質：レンズ部=ポリカーボネート

ボディ部=ABS樹脂

電池の入れ方

新品の単二形アルカリ電池かマンガン電池をご使用下さい。
(※指定外の電池や、新旧、異種の電池を混用しないで下さい。)

- (1) レンズフレームを反時計方向に回して外します。
- (2) 豆球部分を直接手で持たないように注意しながら、ベースプレートをまっすぐに引き出します。
- (3) 十一の向きに注意しながら、図のように上側の2本から先に、単二形電池を電池ホルダーに入れて下さい。
- (4) 単二形の電池を入れたら、ベースプレートを本体に合わせながら元の位置にはめ込みます。
- (5) Oリングとガスケットに異物などが挟まっていないかどうかを確認しながら、レンズフレームを時計方向に回して、しっかりと閉め戻します。(その際、Oリングとガスケットがレンズフレームの溝にしっかりとハマっているかどうかを確認して下さい。) 水漏れの原因となりますので、レンズフレームは、本体に止まるまでゆっくり、しっかりと締め付けて下さい。



ストラップの使い方

落下防止の為に、ストラップを手首に通してから本体を持ってご使用下さい。

スイッチのON

- (1) ロックレバーを押し上げて、安全ロックを解除します。
※ロックレバーをかけたまま無理にスイッチツマミを回すと、破損することがありますので、必ずロックを解除して下さい。
- (2) スイッチツマミを向かって右方向に回すと、点灯します。
(図のような点灯マークが現れます。)
ロックレバーを下げると点灯状態を完全に固定できます。



スイッチのOFF

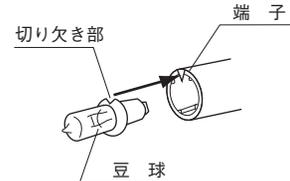
- (1) ロックレバーを上げ、スイッチツマミを向かって左方向に回して、消灯します。(点灯マークが消えます。)
- (2) ロックレバーを押し下げて、安全ロックを掛けます。

※不用意にスイッチが入って電池が消耗したり、器具が破裂して思わぬ事故を招く可能性がありますので、使用後は必ず安全ロックを掛けるようにして下さい。

豆球の交換方法

TUSA ダイビングライトには予備球として4.8V 0.52Aのクリプトン球が付属しています。ご使用中、ハロゲン球が切れた場合には、以下のようにして予備球に交換して下さい。※使用直後は、豆球が熱くなっていますので、必ず時間を置いてから交換して下さい。また、豆球が切れやすくなりますので、交換の際にはなるべく布などを介して触れるようにして下さい。

- (1) レンズフレームを反時計方向に回して外します。
- (2) ベースプレートをまっすぐに引き出します。
- (3) ベースプレートから、付属の予備球を引き抜きます。
- (4) 図のように、ベースプレートと端子の切り欠き部分を合わせて豆球を外し、予備球に交換して下さい。(付属の予備球は、少し暗いクリプトン球です。次回のダイビングには、別売の明るいハロゲン球に交換して下さい。TUSA指定：5.2V, 0.85A ハロゲン球)
※故障の原因となりますので、指定球以外は使用しないで下さい。



メンテナンス方法

●使用後は、レンズフレームをしっかりと締め付けた状態のままよく水洗いを行い、陰干しをして下さい。充分乾燥したら、放電や液漏れ、気化したガスによる破裂を防ぐためにも、中の電池を取り出して、レンズフレームを少しゆるめた状態で保管して下さい。

●長持ちさせ、水没を防ぐためにも、Oリングとガスケットが乾燥しかけたら、市販の防水ライト用(耐水性タイプ)シリコングリスを少量指に付け、極めて薄く全周に塗り抜けてから使用するようにして下さい。

その他の注意事項

●直射日光下や、炎天下の車内やトランクの中等の、極端に熱い場所に放置しないで下さい。熱や紫外線の影響によって破損したり、素材寿命が縮まったりすることがあります。

●各部に付着した汚れが気になる場合は、市販の中性洗剤をメーカー指定の希釈率(洗剤の裏面の説明に表示)に薄めて入れた水で洗い、その後洗剤成分を流水で完全に落として下さい。強い洗剤をそのまま用いたり、つけ置き洗いをしたり、洗剤成分が少しでも残っていると、洗剤の種類によってはプラスチック素材を侵してひび割れ等を起こさせるものがあります。